

ヒム・ゾム登頂 (一九六九年)

藤井信一郎

一、はじめに

鳥取県、島根県を含める山陰地方からは、今まで海外登山隊は一隊も送られていない。山を志す誰れでもがそうであるように、われわれも長い間ヒマラヤの高峯へ夢をはせていた。一九六一年に鳥取県山岳協会では海外登山研究会が作られたが、目標を具体化することはそれほど簡単なことではなかった。目標の山の決定、資金、休暇取得、準備活動など、それこそ難問が山のように立ちふさがってしまう。われわれは「とにかく行く」という合言葉で結集した。一九六五年以降ネパールの登山禁止令が出されたため、目標を、人のあまり入っていない、低くても初登頂を、さらに費用、日数その他の条件から入山し

やすいヒンズー・クシュにねらいを定め、最終的には東部ヒンズー・クシュのルンコーの近くにあるピーク六四四一に目標を決定した。これは一九六七年ルンコーを初登頂した東海大・Bの鈴木氏の情報を得た結果である。日本山岳会山陰支部の会員を中心にプランニングを行なったので、この遠征を山陰支部の正式な行事とし、遠征隊の名称を日本山岳会山陰支部ヒンズー・クシュ遠征隊(略称 S・H・E・69)とした。後援は鳥取県教育委員会、鳥取県山岳協会、山陰放送。

隊員の構成は次のとおりである。

隊長 藤井信一郎 (29歳)

隊員 船越元熙 (29歳) 食糧、会計

隊員 広江 研 (27歳) 記録、医療

隊員 井上豊重 (27歳) 装備

二、ヒム・ゾムおよびその周辺の紹介

パキスタンとアフガニスタンの国境からイランまで続くヒンズー・クシュ山脈のうち、東部ヒンズー・クシュと区分される地域の北部にこの山は位置している。ネパールの登山禁止以後、入山の比較的容易だったヒンズー・クシュのほとんどの高峯は登られているが、われわれの登ったヒム・ゾム周辺の北部は、ほとんど登られずに残っていた。ヒム・ゾムから西には、

Sketch Map of Chitral State and Caravan Route to Him Zom

